

(公財)東京都サッカー協会広報誌

Tokyo FA News



写真提供：独立行政法人日本スポーツ振興センター

巻頭特別企画

国立競技場

「超都市型スタジアムから 生まれる熱狂と興奮」

MATCH REPORT

- 第98回全国高校サッカー選手権大会
- JFA第43回全日本U-12サッカー選手権大会
- 第51回東京都大学サッカー連盟新人大会
- JFAキッズ(U-6)サッカーフェスティバル
- Brilliaカップ第3回東京都少年フットサルフェスティバルU-11
- 第11回JFAグラスルーツフェスティバル
- JFA公認D級コーチ養成講習会

TOKYO FA's Pick Up

国立競技場
「世界最高のユニバーサルデザイン」

UNION NEWS

連盟ニュース

「Tokyo FA News」は、東京都サッカー協会発行の広報誌です。
年2回、東京都のサッカーにまつわる情報を発行しています。

TOKYO FA NEWS 2020
Tokyo Football Association

Vol.32

私たちは 東京都サッカー協会を 応援しています。



四季折々の花々と深緑、そして青い空と海があなたを迎えるオートキャンプ場です。
都心から車で2時間のアクセスで、自然豊かな中で静かなキャンプを楽しめます。
自然に囲まれ、日々の喧騒を忘れて週末を過ごしてみませんか。

キャンプ場名 湧水の杜 大川オートキャンプ場
所在地 静岡県賀茂郡東伊豆町大川 853-3
電話番号 090-2240-6956
ホームページ <https://zhangdaotokyo.wixsite.com/ookawa-camp>

人を潤し自然を守る ECO UP PROJECT

 日本水資源開発株式会社

代表取締役 松永 利明

《東京営業所》

〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町30-4 渋谷アジアマンション604
TEL 03-3477-2477 FAX 03-3477-7661
<http://www.yuusui-no-mori.com/>

世界最高のユニバーサルデザインを持つ “みんなのスタジアム”



写真提供：独立行政法人日本スポーツ振興センター

障害・年齢・性別・国籍に関わらず、全ての人が安心して快適に観戦できる場所へ――。

新しくなった国立競技場は「世界最高のユニバーサルデザイン」をコンセプトのひとつとして設計された。

全ての人をフラットに迎え入れる”みんなのスタジアム“で、もうすぐスポーツの祭典が始まる。

国立競技場の主なユニバーサルデザイン

- ・車椅子席
- ・男女共用トイレ
- ・授乳室
- ・ベビーカー置き場
- ・集団補聴設備（磁気ループ）
- ・2層、3層へのアクセス専用エスカレーター
- ・屋内外のエレベーター
- ・観客席通路空間のバリアフリー（手摺設置、階段の視認性）
- ・機能分散した車椅子用トイレ
- ・補助犬トイレ
- ・託児室（キッズルーム）
- ・休憩室（カームダウン・クールダウン）

車椅子席は10倍以上に

新しくなった国立競技場には世界に誇れるものがある。それが「世界最高のユニバーサルデザイン」だ。ユニバーサルデザインとは、1980年代にアメリカ・ノースカロライナ州大学教授だったロナルド・メイス氏によって提唱された考え方だ。製品、環境、建物、空間などをあらゆる人が利用できるようにデザインすることを言う。

国立競技場では2016年1月に大成建設・梓設計・隈研吾建築都市設計事務所共同企業体と設計契約した後、ユニバーサルデザインワークショップを作って、14団体と意見交換を何度も重ねてきた。

基本設計の段階から議論することで、車椅子で移動する、目が見えない・見えにくい、耳が聞こえない・聞こえにくい、お年寄りや子どもといった、多様な立場の方々からのリクエストを取り入れることができたという。

スタジアムまでの動線にはエレベーターやスロープが設置され、車椅子利用者でも段差を乗り越えずに入場できる。チケット売り場には低めのカウンターが設置されるなど細やかな配慮がなされた。多くの来場者が利用する主要ルートには誘導ブロックや音声案内サインがあるため、視覚障害者でも安全に移動できる。

旧国立競技場と比較して、最大の変化と言えるのが「車椅子席」だ。常設の車椅子席は40席から約500席と10倍以上に、パラリンピック開催時はさらに追加される予定だ。実際に、初めての公式戦として開催された天皇杯の決勝戦には、多くの車椅子利用者の来場があった。

環境が整備されたのは数だけではない。画期的なのは車椅子席は1層、2層、3層の全てのエリアにバランスよく設置されていること。とりわけ、1層スタンドは360度に席が設けられてお



アクセシブルトイレは93カ所に設置

り、観戦する際の選択の幅が大きく広がる。

また、他のスタジアムでは後ろに設置されることが多かった同伴者席が横に設けられている。同じ場所から、同じように試合を見られるのは、車椅子利用者にも同伴者にもうれしいことだろう。

サイトライン（視線）についても十分に確保されている。「前の人が立ち上がると試合が見られない」「子どもや小柄な人と見えにくい」といったストレスが最大限に小さくなる設計だ。

トイレ問題を解消するために

スポーツの観戦体験を大きく左右するのはトイレだろう。サッカーの試合でハーフタイムに大行列ができて、得点シーンを見逃したという経験をした人は少なくないだろう。そうした不満を解消すべく、新しくなった国立競技場はトイレの数を増やしている。男子用は1027基（うち小便器761基）、女子用933基を設置。男子用、女子用のトイレマークが至るところに表示され、ボタンを押せば音声案内が流れるなど、目の不自由な来場者にも配慮されている。

便器の数が最も多いのはB1階で、1、2、3階スタンドの中で最大の広さで便器数があり、ト



車椅子席は同伴者と横並びの座席配置

イレ専用エリアといっても過言ではない。天皇杯決勝では、各階のトイレに行列ができる様子も見られたが、B1階に行けば並ばずに入れるという情報が周知されれば、スタジアムのマイナスイメージにつながるトイレ問題は解決されるだろう。

そして、一般の男性、女性用トイレにもそれぞれ障害者や、小さな子どもを連れていても利用しやすいように大型のトイレブースとしてオストメイト対応ブースや親子対応ブースが設置されている。また、車椅子用トイレは、様々な車椅子利用者を想定した車椅子専用個室として機能分散して77箇所、LGBTや発達障害者の付添利用を想定した男女共用トイレは16カ所ある。また、補助犬用トイレも用意されている。

子ども連れにとってもうれしいのは、授乳室、託児所（キッズルーム）、ベビーカー置き場といった設備が充実していること。知的・精神・発達障害者が気持ちを静めるための休憩室（カームダウン・クールダウン）もバランスよく配置されている。

全ての人々が快適に観戦できるスタジアムに。東京オリンピック・パラリンピックのメイン会場となる国立競技場は、“みんなのスタジアム”と呼ぶにふさわしい空間になっている。

全ての面で進化している

——国立競技場は他のスタジアムとどんなところが違うのでしょうか。

まず、特徴的なのはスタンドが“3層構造”になっていることです。ヨーロッパによく見られる形で、レアル・マドリードの本拠地であるサンチャゴ・ベルナベウ、バルセロナの本拠地カンプ・ノウなどもそうです。

スタンドの1層目が20度、2層目が29度、3層目が34度と上に行くにつれて傾斜が強くなっています。いわゆる「すり鉢状」の3層スタンドが360℃ぐるりと囲んでいるので、アスリートと観客の一体感が生まれると思います。

ピッチに立ってみると、大きな屋根と、そびえ立つスタンドによって、全体的に包み込まれるような雰囲気があります。選手からすれば、劇場の中でプレーしているような感覚になるのではないのでしょうか。

——旧競技場から比べて、ここが進化したと言えるところは。

本当に“全て”と言っても良いと思います。システム、リボンボード、デジタルサイネージ、Wi-Fi、ラインアレイスピーカーなど今の日本のスタジアムでは最先端のものを導入しています。

——サッカーやラグビーの選手にとっては芝生の状態は重要なポイントになります。

新しい国立競技場は屋根が非常に大きいので、日照時間が必然的に少なくなります。そのため、屋根の南側を「トップライト」と呼ばれるガラス素材にし、自然光を取り込む工夫をしていますが、どうしても光が当たらない場所も出てきますし、十分とは言えません。

そのために、補光器、つまり人工ライトを12台用意して1日12時間ぐらいついて当てています。ちょっとずつライトを移動させながら、2日かけてピッチ1面を照らすような形です。日照時間の少ないヨーロッパではスタンダードになっています。また、送風機も6台あってフル稼働しています。

1月1日に天皇杯、1月11日に大学ラグビーが開催されたのですが、我々の予想以上に芝生のダメージは少なかったです。芝生の管理状態については、データをとって、東京オリンピック・パラリンピック競技大会後の“レガシー”にするべく研究を行っています。

——国立競技場ではアスリート・ファーストをテーマにしています。具体的にはどのような点でしょうか。

アスリートが集中力を保って、プレーに集中できるように環境を整備しています。

一つはスムーズに移動できる選手動線です。陸上競技ではサブトラックから選手連絡通路を通して、練習用走路を経由してトラックへ。サッカーやラグビーでは、選手専用バス駐車場から、すぐに更衣室に移動できます。距離にして100メートルほど。かなりストレスは少ないはずですが。

もう一つがウォーミングアップスペース。陸上競技用のサブトラックは80mの6コースでエアコン付きです。フットボール用のウォー



人工ライトによって芝生の日照時間を確保している



国立競技場 「超都市型スタジアムか」

2020年1月1日——サッカーの聖地が帰ってきた。

ヴィッセル神戸と鹿島アントラーズによる天皇杯決勝は、1カ月前に完成した新しくなった国立競技場はどんなところが変わったのか。控える東京オリンピック国立競技場の企画・管理を担当する独立行政法人日本スポーツ振興センターの

ミングアップスペースは両方の更衣室の横にあって、人工芝が敷いてあります。5mと天井がかなり高いので、ラグビーのラインアウトの練習もできるようになっています。

スポーツの聖地になってほしい

——こけら落としとなった天皇杯の決勝では、どんな課題が見つかりましたか。

最も不安があったのは観客の動線です。12月にあったオープニングイベントでも、帰る時に観客が詰まる状況が発生したので、どうなるかなど。天皇杯に関しては試合後の表彰式もありましたし、すぐに帰る人と、しばらく残る人がいたので、約6万人が来たことを考えれば、そこまでの混乱はなかったと思います。

ただし、国立競技場の周辺には明治神宮野球場、秩父宮ラグビー場があります。もしも同じ日、同じ時間帯にイベントが行われることがあれば、10万人ほどが一斉に出てくるかもしれない。そうした時に、どのように観客を誘導するかは改めて検討が必要です。

——東京オリンピック・パラリンピックの開会式と閉会式、そして陸上競技と女子サッカーの決勝戦が開催されます。

世界的なビッグイベントのメイン会場になるわけですから、国立競技場が果たす役割は重要になってきます。女子サッカーの決勝戦は、前の日の夜にも陸上競技が行なわれているので、短い時間の中で陸上仕様からサッカー仕様にする必要があります。

——天皇杯は冬でしたが、東京オリンピック・パラリンピックは夏に行われます。暑さ対策はどのように行いますか。

自然の力である風を活用した仕組みを導入しています。スタジアム内に風を取り込んで、フィールドの熱を逃していくという仕組みです。また、「気流創出ファン」が設置されているので、観客の体感温度を低減することができます。入場ゲート付近にはミスト冷却装置もあります。

——2020年が終わった後に、どのように運営していくかは大きなテーマになると思います。

世界的にも、これだけ首都の真ん中にあるスタジアムはありません。



「生まれる熱狂と興奮」

ばかりの国立競技場での初めての公式戦として行われた。
ック・パラリンピックに向けての課題は見たのか。
古泉修さんに話を聞いた。

写真提供：独立行政法人日本スポーツ振興センター

アクセスに関しては世界一といっても過言ではないでしょうか。この素晴らしい立地を生かして、どれだけビッグイベントを呼び込めるかが鍵になってくると思います。

また、現時点では計画段階ですが、明治神宮野球場や秩父宮ラグビー場も改修が予定されています。この国立競技場を中心とするエリアはどんどんスポーツで活性化されていくはずですよ。

——かつてはサッカーの聖地と呼ばれていましたが、新しい国立競技場もそうになっていくのでしょうか。

中立的な立場のスタジアムなので、天皇杯決勝もそうですが、カップ戦のファイナルなどは開催されていくと思います。国立競技場がどうしてサッカーの聖地と呼ばれるようになったかという、たくさんの名勝負の記憶が刻まれていったからだと思うんです。そうした積み重ねによって、サッカーファンにとって特別な場所になっていくのではないのでしょうか。

東京のサッカーファミリーのみなさんには、国立競技場に足を運んでいただき、そしてサッカー少年・少女のみなさんには、ここでプレーすることを目標に頑張っていたいただきたいです。



観客の体感温度を低減するための気流創出ファン

施設概要	
①面積	・敷地面積：約109,800㎡
	・建築面積：約69,600㎡
	・延べ面積：約192,000㎡
②高さ	約47m
③大きさ	南北方向約350m、東西約260m
④階数	地上5階、地下2階
⑤観客席数（竣工時）	約60,000席（うち車椅子席：約500席）
⑥フィールド	・トラック：全天候型トラック400m×9レーン、合成ゴム
	・芝生：天然芝
⑦トイレ数	・男子小便器761基、大便器266基
	・女子933基
	・アクセシブルトイレ：93箇所
⑧エレベーター・エスカレーター数	・エレベーター：32台
	・エスカレーター：20台
⑨設備	・大型映像装置（南北）
	・リボンボード：縦0.96m×横約640m（全周）
	・デジタルサイネージ：約600枚
	・スタンド内照明器具：約1,500台
	・ラインアレイスピーカー（競技用音響）：38基
	・Wi-Fi：約1,300台



チーム更衣室まではストレスなく移動できる



PROFILE

独立行政法人日本スポーツ振興センター
国立競技場

古泉 修（こいずみ・おさむ）

1959年3月1日生まれ、新潟県出身。1999年より国立競技場の施設運営を担当。現在に至る。



國學院久我山、東久留米総合が選手権で充実の戦いを見せる 第98回全国高校サッカー選手権大会



主催：(公財)日本サッカー協会、(公財)全国高等学校体育連盟、民間放送43社 日時：2019年12月30日(月)～2020年1月13日(月・祝)
会場：駒沢陸上競技場、味の素フィールド西が丘 他

「第98回全国高校サッカー選手権大会」に東京都代表として出場した國學院久我山高校と都立東久留米総合高校。両校の全国での戦いをレポートする。



大観衆の中で開幕戦を戦った國學院久我山高校

＜國學院久我山高校 戦績＞

- 1回戦
vs 前原(沖縄) ○8-0
- 2回戦
vs 専修大北上(岩手) ○0-0
(PK 6-5)
- 3回戦
vs 昌平(埼玉) ●0-1



8年ぶりの選手権出場を果たした東久留米総合高校

＜東久留米総合高校 戦績＞

- 1回戦
vs 草津東(滋賀) ●2-4

4年ぶりに帰ってきた選手権は、開幕戦で8得点の大勝

4年ぶりに帰ってきた高校選手権の舞台について、清水恭孝監督はその感慨をこう語る。「この素晴らしい環境を子供たちに用意していただけたことを本当に幸せに感じます。改めて素晴らしい場所だなと思いますね」。1万3千人を超える駒沢陸上競技場での開幕戦は、國學院久我山高校のド派手なゴールショーが繰り広げられることになる。

最初の得点は開始6分。FW山下貴之の冷静な一撃を皮切りに、次々とゴールの花火が打ち上がった。11分に再び山下。23分にはFW山本航生。前半だけで3点を奪うと、52分には「運もあったんですけど、なんか持っていましたね」と笑った山下が早くもハットトリックを達成。60分に山本、64分にFW戸坂隼人、さらに66分に途中出場のDF河原大輔も続き、70分には山本もハットトリックとなる8点目を記録。「自分たちは攻撃が特徴でもあるので、それを存分に出せました」とMF福井寿俊も口にする8-0というスコアで、全国に衝撃を与えてみせた。

今年のチームは春先から明確に日本一を掲げていたが、全国総体のショッキングな初戦敗退がスタイルを見直すきっかけとなった。開幕戦で最も際立ったのは切り替えのスピードと強度。「攻撃陣が守備への切り替えをしっかりとってくれた部分が、チームにプラスになりましたね」(清水監督)。アタックの多彩さと破壊力はそのままに、インテンシティを高めてきたことが総合力を一段階引き上げ、この結果に繋がったことは語り落とせない。

「どこかで今までの“上手かった”チームよりも“強く”したかった所があるので、そういう意味では久我山らしさにプラスアルファという所なのかなと思います」と話す指揮官の言葉は興味深い。『美しく勝つ』というスローガンが目されることの多い國學院久我山へ、“強さ”をプラスすることに清水監督は注力してきた。その集大成にふさわしい舞台で、“美しく強い”ゲームを披露したことは、大いに称賛されるべきだろう。最後は3回戦で涙を飲んだものの、新たに身に付けた顔で全国の強豪へ立ち向かった彼らの奮闘に拍手を送りたい。



「美しく勝つ」ことに「強さ」もプラスできたと言った、清水恭孝監督

後半に見せた意地が最高の40分間を演出する

「前半を振り返ると『全国大会ってこんなに難しいんだ』という形から、あの後半を選手たちに見せてもらったことをとても感謝しています」。終わったばかりの80分間を振り返った加藤悠監督には充足感が漂っていた。東久留米総合高校にとって8年ぶりとなる冬の全国は、まったく違う2つの“40分間”が交差する舞台となった。

いきなりの衝撃は4分。綺麗な形で草津東高校に先制点を許した上、そのプレーでDF下田将太郎が負傷交代。ピハインドを負いつつ、絶対的なキャプテンまで失ってしまう。「将太郎がいなくなったことでショックを受けてしまった」(MF足立真)「精神的に追いつめられてしまって、ずっと戸惑いがある…」(DF岩田蓮太)。さらに2点を追加され、0-3というスコアで最悪の40分間を終了する。

ハーフタイム。「『もう下を向かないで、楽しんでやろう。このまま終わったらもったいない』と言いました」。下田がチームメイトに声を掛ける。「もうみんなで言いたいことを言い合って、後半の戦い方を決めました」(FW松山翔哉)。何かが吹切れた。

53分、松山が1点を返す。64分。「今日は絶対点を取ってチームを勝たせようと思っていた」MF柳田晃陽が相手の隙を突いて2点目を挙げる。スタジアムの空気は完全に東久留米総合のホームに。「『逆転まで行けるんじゃないか』と思って、ベンチで興奮していました」(下田)。終了間際に追加点を奪われ、結果的には2-4で敗れたものの、「後半は会場も良い雰囲気になって、良いサッカーができたのかなと思います」と柳田。あと一步届かなかったとはいえ、後半は彼らの意地が形となった最高の40分間だった。

「今年のチームは不思議な力を持っていて、あのようなことができることをどうしても見てもらいたかったので、今日後半で少しでも彼らの力を感じ取ってもらえたら、これほど嬉しいことはありません」(加藤監督)。まったく違う2つの“40分間”の経験は、東久留米総合の今後へ大きな糧になるはずだ。



「今年のチームは不思議な力を持っていて」と振り返った加藤悠監督

東京ヴェルディジュニア、ベスト16

JFA第43回全日本U-12サッカー選手権大会



主催：公益財団法人日本サッカー協会、公益財団法人日本スポーツ協会、日本スポーツ少年団、読売新聞社
 日時：2019年12月26日（木）～12月29日（日）
 会場：鹿児島ふれあいスポーツランド、鹿児島県立サッカー・ラグビー場（1次ラウンド・ラウンド16）
 試合時間：40分（8人制サッカー）

JFA第43回全日本U-12サッカー選手権大会が鹿児島県で開催され、東京都代表として出場した東京ヴェルディジュニアはグループリーグを勝ち上がり、ベスト16で大会を終えた。

試合結果

一次ラウンド（グループD）

東京ヴェルディジュニア 2-1 丸亀FC（香川県）
 ヴィクサーレ沖縄FC（沖縄県） 1-2 東京ヴェルディジュニア
 尾道東サンパFC（広島県） 1-1 東京ヴェルディジュニア

ラウンド16

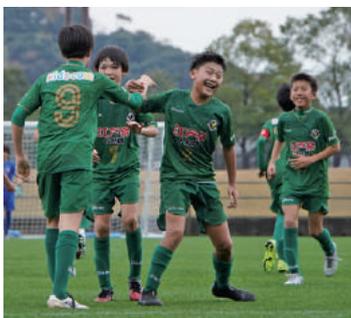
東京ヴェルディジュニア 0-4 八尾大正FC（大阪府）

粘り強さを発揮し、グループリーグを突破

ジュニア年代の8人制サッカー日本一を競う「第43回全日本U-12サッカー選手権大会」が12月26日から鹿児島県鹿児島市で行われ、東京都代表として出場した東京ヴェルディジュニアは強豪がひしめく全国大会でも持ち味を発揮した。ショートパスを軸に据えたポゼッションをベースに、カウンターやセットプレーからも得点を挙げ、2年連続でグループリーグを突破。ベスト16に入った。

接戦を制して東京都大会を勝ち上がった粘り強さが生きた。4チーム総当たりの1次ラウンド（グループリーグ）では、初戦で丸亀FC（香川）と対戦。ヴェルディは開始早々の2分に中村宗士朗がミドルシュートを決めて流れを引き寄せると、主導権を握ってシュートチャンスを何度も作っていく。

しかし、後半は次第に雨が強くなりスリッピーなコンディションに苦戦。ボールが思うようにつながらず、逆に丸亀に同点ゴールを許してしまう。それでもヴェルディは38分に右からのCKのチャンスを獲得すると、今井宏亮が競ってファーサイドに流れたボールから山田空羽斗が勝ち越し点を挙げ、初戦を白星で飾った。



初戦の丸亀FC戦を2-1で勝利して勢いを得た

同日午後に行われた第2戦のヴィクサーレ沖縄FC（沖縄）戦では天候が回復する。ただ、ヴィクサーレの素早いプレスをなかなか外せず、前半はシュート2本を放ったのみで無得点。守備に追われる時間が長く続いたが、28分に山田が右足の鋭いミドルシュートを右隅に決め均衡を破った。さらに、齋藤凧がGKの頭上を越えるループシュートを落ち着いて決め、勝利に導いた。

引き分け以上でグループリーグ突破が決まる第3戦目では、尾道東サンパFC（広島）と対戦。立ち上がりの3分にカウンターから失点するものの、動揺することなくヴェルディらしいパスサッカーで主導権を掌握する。8分に今井宏亮がゴール前にクロスを送ると、GKのクリアミスに乗じて佐伯凌世が決めて同点とした。

ところが、28分に攻守の要となっている外館環汰がヘディングの競り合いで負傷し、ピッチの外に担ぎ出されてしまう。このアクシデントもあって相手に流れを渡し、試合終盤はピンチが続いたが、チャレンジとカバーの連携は崩れず、1-1のスコアで耐え抜いた。勝点1を積み上げ、ノックアウト方式の決勝ラウンド進出を確定させた。

フィジカル勝負で苦戦。流れを変えられず

松尾洋監督は予選ラウンドを「基本的にはボールを大事にするところは変わらないが、前線にフィジカルの高い選手がいるので、そこも生かす。チームワークで勝ってきた良さは出せた」と振り返った。ベスト8に入った昨年のチ



ラウンド16八尾大正FC戦に敗れ、ベスト16で大会を終えた

ームに比べると、チーム全体としては小柄。フィジカル勝負に持ち込まれると劣勢に立たされるため、それをいなすためにも主導権を握ったパスサッカーが重要だった。

だが、チームワークで立ち向かうヴェルディに立ちほだかかったのが、ラウンド16で対戦した大阪代表の八尾大正FCだった。

八尾大正は守備から攻撃への切り替えが早く、最終ラインの背後にも積極的にボールを供給する。身体能力の高い選手も揃え、避けたかったフィジカル勝負を挑まれてしまった。最も全国の舞台でフィジカル勝負の試合があることは織り込み済み。劣勢を強いられるが、ヴェルディは体を張ったハードワークとスペースを消す巧みなポジショニングで応戦する。

試合の序盤は0-0。このまま試合を進められれば勝機は引き寄せられたかもしれないが、15分にDFの裏への突破を許して痛恨の失点。後半にもFKやカウンターから連続してゴールを奪われ、ヴェルディが追いかける点数が時間の経過とともに増えていった。

前日に負傷交代したものの大事には至らずピッチに復帰した外館やGK山崎琉聖は手を叩いて仲間を鼓舞。それでも八尾大正の守備ブロックの中にボールを送り込めず、0-4での敗戦となった。昨年のベスト8を上回る成績を目標にしていたが、今大会は16強での敗退が決まった。

チームの背中を押し続けた山崎は「パスを回して崩しきるところがこのチームの持ち味だが、失点をしてからはチームの流れに持ち込めなかった。声で試合展開を変えたかった。チームがどんな状況になっても冷静にプレーできる選手になりたい」と話し、中学生年代での飛躍を誓った。

COMMENT



松尾洋監督

勢に乗ったときのパワーや、チームワークで勝ってきたチーム。そういうところは出せた。基本的にはボールを大事にするところは変わらないが、前線にフィジカルの高い選手がいるので、そこも生かすサッカーもあります。1試合目の後半は雨がぱつと降ってリズムが悪くなったところはあるが、ピッチは良く問題はなかった。

山崎琉聖選手

（ラウンド16の八尾大正FC戦は）失点してから自分たちのベースでの試合展開にできなかったのが、声を掛けた。試合展開を変えたかったのが一番の理由です。どんどんパスを回して崩しきるところがこのチームの持ち味だが、こういう試合になるということも分かっていたので、泥臭く行こうとは監督からも言われていた。GKとして自分の感情がコントロールできて、チームがどんな状況になってもしっかり気持ちを冷静に保てるプレーヤーになりたい。



1・2部は國學院大、3・4部は東京理科大が優勝

第51回東京都大学サッカー連盟新人大会



主催：東京都大学サッカー連盟 日時：2019年12月21日（土） 会場：創価大学ビクトリーグラウンド

1・2部大会 決勝

成蹊大学	0 - 2	國學院大学
0	(前半) 2	
0	(後半) 0	

第51回東京都大学サッカー連盟新人大会・決勝が2019年12月21日に創価大学ビクトリーグラウンドにて開催された。3部・東京理科大と4部・創価大の一戦は東京理科大が一挙4得点を奪い快勝。1部・2部リーグの決勝は國學院大が成蹊大を2-0で下し、2年ぶりの優勝を決めた。

3・4部大会 決勝

東京理科大学	4 - 0	創価大学
2	(前半) 0	
2	(後半) 0	

1年生が結果を残した國學院大が2年ぶりの新人戦V

1年生2人が結果を残した國學院大が、2年ぶりとなる新人戦タイトルを掴んだ。

先制点は開始直後だった。「(麻生) 竜ノ介がキープして横にずらして、それをどうするか迷ったんですけど、後ろから「思いきり行け!」という声が聞こえたので思いきってシュートを打ちました」とFW長谷川悠。ペナルティー左端から狙った左足シュートでネットを揺らした。

これで勢いに乗ると20分に追加点。DF小山竜二のクロスが麻生がニアで決めた。「あそこは練習からずっと狙っているところ。そこに信じて入り込めたのが良かったです」と麻生。この日は地元・佐賀から父が応援に駆けつけていた。「お父さんが来てくれた前でゴールできたというのと、優勝を決定づけるゴールを決められたのでそれは嬉しかったです」。後半は一転押し込まれる展開となったが、キャプテンのDF高橋泉伎を中心に粘り強い守備で無失点に抑えた。



試合開始早々に1年生の長谷川悠選手がゴールを決める

「今年1年生はすごく力がある。いろいろな面で経験がある子もいますし、仲間同士でも積極的な意見を交換しあえる仲なので、それがプレーに出ている」と指揮官が語る個性豊かな1年生たちは決勝の舞台でも7人がスタメンとして出場し、存在感を放った。

先制点の長谷川は第97回全国高校サッカー選手権で秋田商高を初のベスト8に導き、優秀選手にも選出された有力選手。「自分はスピードやシュートのパンチ力とかが求められているので、チームが苦しい時に決めて、少しでも勝ち点を多く積み上げられるような選手になって、チームが必要としている選手になりたいなと思います」と来年はさらなるレベルアップを目指す。フィジカルの強さを生かした推進力が武器の麻生を含め、今後の成長が楽しみな世代だ。

2年ぶりの新人戦タイトルだが、2年前とは受ける印象が違っていると白須真介コーチはいう。「今年は本当に(優勝を)取りに行くというふうにならなくて、その中で優勝なので、2年前と比べるとそういう意味では実力がついてきたんじゃないかなというのは感じています」。

「100%でやる」を突き詰めた東京理科大が4発快勝

「練習からいろいろと厳しいことを求めてきた中で、常に100%でやるという部分を突き詰めてやってきた結果が最後4-0というスコアに繋がった」と、主将のDF佐々木岳は胸を張った。

東京理科大は37分、コーナーキックの混戦からFW秋山博紀が頭で詰めて先制点。記録はオウンゴールとなったが、「この1週間、意識はずっとサッカーに向けていた」というこのファイナルにける執念がゴールに繋がった。さらに前半終了直前にはゴール右斜め前でフリーキックを獲得。佐々木が正確なキックを中央に蹴り込むと、センターバックで相方を組む酒井康祐は「いままで一番打点が高くいきました」と、力強いヘディングでネットを揺らした。

後半は2点を追う創価大が猛攻を仕掛けるも、佐々木やGK福家優希を中心にしっかりと耐えて、58分にはクロスのこぼれ球にMF平野優貴が走り込んで追加点。またベンチワークも生きた。チームは学生主体で行っており、ベンチでは学生コーチの大岩優斗が采配を振るった。終盤は積極的に選手を入れ替えて活性化を図り、4点目は途中出場のMF相馬唯人がネットを揺らした。

2019年最終戦を優勝で終え、2部リーグに昇格する2020年シーズンに勢いを持って臨む。「アミノバイタルカップでブロック決勝に進出すること、リーグ戦では昇格、降格の繰り返しなのでまずは残留、その上で良い位置につけようという目標を持って、いまやっています」と佐々木主将。まずは「勝ち点25」(酒井)をクリアして残留を確定させ、さらに上の景色を狙う。



コーナーキックからのボールを頭で押し込んだ秋山博紀選手

JFAキッズ(U-6)サッカーフェスティバル2019



【写真提供：オールスポーツコミュニティ】

主催：公益財団法人東京都サッカー協会

日時：2020年1月13日(月祝)

会場：アミノバイタルフィールド

「JFAキッズ(U-6)サッカーフェスティバル2019」は2020年1月13日、アミノバイタルフィールドで開催された。総勢60チームが参加し、楽しみながらサッカーと触れ合った。

2003年から始まった取り組み

空は曇りつつない快晴で1月とは思えないほど暖かく、スタンドは子供の成長を見守る保護者や関係者で大入りの状態で、ピッチに立つ子供たちの表情もどこか誇らしげに映る。今年も60チームと多くのチームが参加し、6チームずつ、10面に分かれて総当たりで試合を行った。

試合は8人制、10分間で実施。だが、試合後の勝ち負けの提示はない。「子供たちの成長過程ではやっぱり楽しかったというところから始めないといけない。このフェスティバルでは何対何でどちらが勝ちというのは一切なしということで徹底しています」と平野正義キッズ委員長。試合の中でもその精神は健在で、ボールが外にアウトした際には、この日審判役として子供たちをサポートした新宿高校の女子生徒たちが、劣勢のチームやあまりボールを持っていない子に渡すなど試合をコントロール。子供たちはどのピッチでも最後まで笑顔でプレーしていた。

こういったジュニア年代に向けての取り組みが始まったのは2002年の日韓W杯の翌年から。日本サッカー協会のもと普及活動が始まり、東京都サッカー協会では2004年から取り組みを実施。U-6年代は当初から行っており、P9でも特集している「JFAグラスルーツフェスティバル」もその一環で、女子に関してもガールズフェスティバル等を行っている。夏に東京ドームで行われる「JFAユニクロサッカーキッズ in 東京ドーム」は最大規模で、2019年は2,369名のキッズが集まった。

そういった活動のひとつひとつが実り、東京では4種(小学生)の選手登録数が増えている。また、今後はイベントを通してパラスポーツとの関わりというのも考えているという。「以前山梨で「ポッチャ」を体験してきました。どうしても障がい者とそうじゃない人と分けてしまいがちですが、子供はそういうのを意識しないで一緒にやって当たり前という感じができる。今年はちょうどパラリンピックもありますから、そういうところもさらに理解が進んでいってほしいですし、イベントを通して、窓口になれば良いと思っています」(平野キッズ委員長)。

COMMENT

○仲花世さん(新宿高1年/文京LBレディース所属)

小さい子供たちが一生懸命ボールを追いかけていたのがすごく可愛かったし、その姿を見て自分もスポーツをもっと頑張りたいと思いました。この子たちがこれから大きくなった時にサッカーをより楽しめるように、女子選手がもっと増えていると良いし、年上の自分たちがサッカーを頑張ってる結果を残して、環境を作ってあげたい。サッカーに対して真面目に向き合って、努力し続けるというのがひとつの目標なので、その姿勢を崩さずに、大人になってもサッカーをすることが夢です。あまり人に教えるのが得意なわけじゃないんですけど、今日子どもたちに教えたりして、そういう仕事も楽しいなとちょっと感じました。

○佐藤剛コーチ(バディSC八王子)

この年代はルールに縛られずに、このフェスティバルのように出たらずくにボールを出したり、細かいルールがない方が楽しめると思います。芝のピッチで転んでも痛くないですし、思う存分できたのかなと思います。本当に楽しそうに、ノビノビとやっていました。この年代は楽しんでなんぼだと思うので、これからも楽しんでやれるきっかけになればいいと思っています。

○大滝陽介コーチ(坂の上サッカークラブ)

普段の園だけのお友達じゃなくて、サッカーをやっているお友達と触れ合う機会というのはあまりないので、参加して良かったです。子供たちもお友達と試合をするというところで、今日はみんな元気よく、テンションも上がっていたのかなと思います。もちろんサッカーは小学校に行っても続けてほしいとは思いますが、何かに対して諦めない気持ちというのはほかのところでも生かしてほしいと思います。



一生懸命ボールを追いかける子供たち



サッカーの楽しさを十分に伝える時間となった



Una Primavera Football Club が大会初優勝 Brillia カップ 第3回東京都少年フットサル フェスティバル U-11



主催：公益財団法人東京都サッカー協会 日時：2019年12月7日(土)～12月14日(土) 会場：世田谷区総合運動場体育館

2019年12月14日、「Brillia カップ 第3回東京都少年フットサルフェスティバル U-11」が世田谷区総合運動場体育館で開催された。この日の2次ラウンドには1次ラウンドを勝ち上がった16チームが参加。激戦の末に「Una Primavera Football Club」が大会初出場初優勝を果たした。

強化の場の創出とフットサルの普及を目的

今回で3度目、プレ大会も含めれば5度目の開催となる。東京都サッカー協会フットサル委員会の木村正人実行委員長は「年々選手たちのレベルも上がってきている。戦術や技術もフットサルらしくなってきたのかなと思います」と手応えを語る。もともとフットサルでは毎年、全国大会である「バーモントカップ」が行われている中で、サッカーのように各年代別の大会というものがなく、次代を担うU-11年代にとっても強化の場が限られていた。そういった子供たちに強化の場の創出とフットサルの普及を目的として2015年にスタートしたのが「Brilliaカップ」だ。

第3回の今年は3日間に拡大して開催。トーナメント形式で争われた最終日はやはりレベルの高い戦いが繰り広げられた。今回優勝したUna Primavera FCのように普段はサッカーを主戦場としているチームと、フットサルを専門に行っているチームの攻防戦も見どころのひとつ。特有の細かな戦術を駆使してくるフットサルチームに対し、サッカーチームはパワーやテクニックで対抗するなど、互いに「らしさ」を発揮する中で大会は大いに盛り上がった。

「今後10回、20回と続けて、Brilliaカップを子供たち、チームが目標とする、ここで優勝したいと思ってもらえるような大会にしていきたい。将来的に日本代表に選ばれるような選手が出てきてほしいですね」と木村実行委員長は大会の発展、そしてここを経験した選手たちの成長に願いを込める。自身も高校サッカー出身だという大会スポンサーの東京建



(左から) 東京建物(株)大久保部長、木村実行委員長、堀江さん

物株式会社 住宅事業企画部CRM室の堀江隆寛さんは「Brilliaブランドとしても「人が輝くことで、街も輝く」という考えを持っている。選手たちやもちろん出ていない選手たちも含めて、チームのみんな、子供たちみんなが輝く、そういう場が作れるとすごくいいのかなと思います」とした。

大会初出場のUna Primavera Football Clubが制覇

激戦を制したのは2019年度に初めてバーモントカップに出場したUna Primavera Football Clubだった。

「全国を経験できて、フットサルの中で一番何が獲得できたかという

と、やっぱり強いフィニッシュの部分」と大泉伸幸総監督はいう。「一般的にフットサルという足元のテクニックや、細かいマークの外し方、コンビネーションの部分などがメインで取り上げられているとは思

いますが、私の中では決定率、ゴール前でのシュートを打ち切る、決め切るという部分が本質だと思っているので、その部分の精度が特に上がったのかなと思います」。その最後の部分での力強さはContente 青梅 U11との決勝戦でも存分に発揮された。

2分にエース小川稜太のゴールで先制すると、8分には双子の弟・小川颯太の目の覚めるような左足シュートで加点。前半終了前には小川稜が個の強さを見せてさらに2点を加えた。後半立ち上がりには失点をしたが、サッカーチームらしい力強さで押し込むと17分、19分、24分と小川稜が3点を叩き込んで7-1で勝利。キャプテンの小川稜はこの試合6得点と大爆発だった。

昨年はバーモントカップ都予選を勝ち上がり、初の全国大会出場を決めた。小川稜はひとつ上の代でもスタメンで活躍。開幕戦では記念すべきファーストゴールを奪っており、今年も2年連続の開幕弾を見据える。弟の小川颯も途中出場でも全国を経験。この2人が今年のチームの中心だ。いまは個々のポテンシャルにアドリブを効かせてやっているという中で今後の課題と語るの、やはりフットサルの細かな戦術の部分。「そこが1つ2つ3つと積み重なっていけばさらに良い攻撃ができる。守備でも今回「あっ、やられたな」という失点があった。サッカーチームではありつつも、サッカーに生かせる戦術的な部分はどんどん吸収していきたい」。

その上で狙うのは全国でのさらに高い景色。今日優勝したU-11のメンバーは、今年の夏全国大会を目指すことになる。「(ベスト16の敗戦は)本当に悔しかったです。彼らと今年リベンジをぜひ成し遂げたいと思います。目指すは本当にとってっぺんだけ、全国優勝することしかないと考えています」と大泉総監督。個々の武器を磨きつつ、そこにサッカーの要素も積み重ねて、日本一を目指す。



フィニッシュを意識して、決勝も7得点

JFA グラスルーツフェスティバル 2019 in 東京



【写真提供：オールスポーツコミュニティ】

主 催：公益財団法人東京都サッカー協会

日 時：2019年12月1日(日)

会 場：AGF フィールド<天然芝フィールド>

今回で11回目となる「JFA グラスルーツフェスティバル 2019 in 東京」が12月1日にAGF フィールドで開催された。午前の部が「U-6」(保育園、幼稚園児などの未就学児)、午後の部が「U-8」(小学校1年生～2年生)で行われ、晴天の中、子供たちは笑顔でボールを追いかけていた。

サッカーとの良い出会いの場を創出

快晴の空のもと、ピッチに子供たちの笑顔が咲いた。「より多くの子供たちにサッカーとの良い出会いの場を創出」することをテーマに行われてきたイベントも11回目。「U-6」の部が152名、「U-8」の部が158名と、今回も多くの子供たちが天然芝の環境のもとボールと触れ合った。

午前の部が幼稚園児などの未就学児を対象とした「U-6」、午後の部は小学校1年生～2年生がターゲットの「U-8」に分かれて開催。それぞれ動きづくりやボールフィーリング系4セッションと、ゲーム系4セッションの併せて8セッションをローテーションしながら行われた。

各セッションでは「おにごっこ系」「動きづくり系」と、「ボールフィーリング系」ではドリブル、シュートに分かれ4セッションを実施。シュートやドリブルというサッカーと直接関係のあるプレーだけでなく、ボールを使わなかったり、手に持って行うなど、一見サッカーとは関係ないような動きにもサッカーの要素が散りばめられており、サッカーをやったことのある子はもちろん、やったことのないような子供たちも、楽しみながらサッカーに必要な動きを学んでいた。午後の「U-8」の部ではそこにパスなど、よりサッカー的な動きも加えられた。



ゲーム系セッションでもボールを必死に追いかける

そして子供たちお待ちかねのゲーム系セッションもバリエーションに富んだメニューで行われた。ミニゴールを使った3vs3に、4つのゴールを配置したゲームでは、空いているゴールを探すために顔が上がり自ずと視野の広さが身につく、コーンゴールを利用して行われたセッションでは、キーパーは5人が手を繋いで広いエリアを守らなければいけない中で声の掛け合いや連携が養われた。未就学児にとってはまだ大きな少年用ゴールも、小学校年代に向けて大きな経験となっただろう。

「オールトーキョー」が楽しい時間をサポート



笑顔が咲いた女の子グループ

加えて、今回初めての試みとして組み込まれたのが「女の子グループ」のセッションだ。自信のある女の子は男の子に混ざってプレーすることもできるが、やはり初心者の女の子にとっては「サッカーはやりたいけど、男の子たちと一緒にプレーするのはちょっと…」という不安もあるだろう。そういった子供たちにもメンターである「サッカーとの良い出会いの場を提供」するべく、女の子のみのセッションを取り入れた。女性コーチの数も多く、優しいお姉さんたちの指導に女の子たちも安心してプレーしているように見え、自然と笑顔の花が咲いた。

また、プロクラブやそれに準ずる団体の多い東京の特色を生かし、FC東京、東京ヴェルディ、三菱養和会、FC町田ゼルビア、東京武蔵野シティFC、立川・府中アスレティックフットボールクラブ、ベスカドーラ町田、フウガドルすみだ、スフィーダ世田谷FC、FC十文字VENTUS、ファンルーツアカデミー、クーバー・コーチング・ジャパンと、多くの団体が一堂に会して、まさに「オールトーキョー」で楽しい時間をサポート。これからサッカーを始める子供たちにとっては最高の出会いの場となったに違いない。

COMMENT

東京都サッカー協会キッズ委員長・平野正義



天候に恵まれて、その中で子供たちがノビノビやってくれたと思います。身体を動かすことによって脳にもたくさん刺激がいて、血流も当然良くなるので、勉強もできるようになります。トータルで立派な人間を育てるためには運動だけでもダメです。勉強だけでも偏りがありますから、このイベントを通してそういうことに繋がってくればというのが私たちの願いです。もちろん一部の子は今後選手になっていきますが、そこは大きな目標ではなく、サッカーが楽しかったというところから始めて、将来的には身体も心も成長してくれるというのが望みですね。



子どもたちへの大人の関わり方を学ぶ 日本サッカー協会公認 D級コーチ養成講習会

主 管：公益財団法人東京都サッカー協会／東急スポーツシステム株式会社
日 時：2020年1月4日（土）・5日（日）
会 場：アディダスフットサルパーク池袋

2020年1月4日、5日の2日間、「日本サッカー協会公認D級コーチ養成講習会」がアディダスフットサルパーク池袋で開催された。グラスルーツに関わるコーチの養成を目的に、育成年代に必要な知識や、サッカーの基本的な技術や練習方法などを学んだ。



2日間で実技と講義のカリキュラムを行った

子どもの目線に立つ

1月4日、5日に東京・池袋で行われた「日本サッカー協会公認 D級コーチ養成講習会」。

日本サッカー協会の公認指導者ライセンスはプロチーム・プロ選手の指導ができるS級を頂点にA級、B級、C級、D級、キッズリーダーというピラミッド型になっている。D級はグラスルーツで活動する指導者の養成を目的として行われるもの。

今回の講習会には定員20人に対して200人ほどの申し込みがあったという。カリキュラムは講義が発育発達、技術・戦術理論、指導者の役割など5時間、実技がボールフィーリング、スモールサイドゲームなど4.5時間の合計9.5時間。

インストラクターを務めた仲野浩氏（47FAインストラクター／東急スポーツシステム株式会社）は言う。

「子どもたちに接するのは、今回参加してくださったコーチのみなさんです。サッカーで教えるのは技術、戦術だけではなく、むしろ、大人の関わり方がグラスルーツ年代では非常に重要になります」

実際に仲野氏からは子どもの目線に立ったアドバイスが送られた。例えば、選手に話す時は太陽を背にしない。太陽を背にすると子どもたちは眩

しくて話に集中しづらくなる。話して説明するだけでは理解できない。コーチはデモンストレーションを見せることが大切だ。

実技の中で強調されたのが「褒めること」の重要性だった。指導者は、選手がモチベーション高くプレーできるように、褒めたり、励ますことが大切。ただ褒めるだけでなく、具体的に伝えることや即座に伝えることも必要だ。その狙いを仲野氏が明かす。

「褒めて基準を示す。褒められた選手はモチベーション高く取り組み、周りの選手も基準を示すことで自分でジャッジすることにも繋がり、正のスパイラルを生み出すことができる。ちょっとした声かけで、チームの雰囲気やトレーニングの質はガラッと変わりますから」

また、昨今はスポーツの指導現場での暴力・暴言が問題になっている。子どもたちへの正しい関わり方を大人に理解してもらうことは、日本サッカー協会が目指す暴力・暴言の根絶にもつながる。

閉講式では仲野氏から参加者に向けて言葉が贈られた。

「2日間で全てを学べるわけではありません。常に学び続けることが指導者にとって大切なことです。これがゴールではなく、ここからがスタートです」

D級コーチとなった指導者それぞれが、子どもたちに接していくことで、日本サッカーの裾野は確実に広がっていく。

タイムスケジュール

【1日目】



講義①「ガイダンス（理念）」
講義②「発育発達（育成の全体像）」
講義④「メディカル」
講義③「コーチング法」
講義⑥「大人の関わり」
実技①「ゲーム」
実技②「テクニク（トレーニングの紹介）」

【2日目】



実技③「サンプル（複合練習）」
実技④「シュート」
講義⑤「審判・ルール」
講義⑦「実技振り返り」
筆記テスト
ガイダンス
閉講式

参加者コメント

佐々木齊さん 今まで自分にはコーチなんて無理だと逃げていました。今回もベンチ入りするために必要なので参加したのですが、2日間で意識が変わりました。サッカーが好きなら、ずっと続ける子を増やしていきたいと思っています。

平岡万仁さん 日頃から意識が違う子に、どうアプローチするかが悩んでいた。いろいろなトレーニングを学んで、やる気が出ないのは、その子のせいではなく、興味を持たせる練習ができていないコーチのせいかもしれないと感じました。

飯田英樹さん お父さんコーチをしています。チームと保護者との考えにズレがあると感じていたのですが、チーム全体として子どもの成長を見てほしいという話をできればと思っています。

TOPICS

優勝・日テレ・ベレーザ
皇后杯 JFA 第41回全日本女子サッカー選手権大会

皇后杯 JFA 第41回全日本女子サッカー選手権大会の決勝が12月29日（日）にNACK5スタジアム大宮で行われた。令和最初の皇后杯決勝に挑んだ日テレ・ベレーザは、浦和レッズレディースと対戦。7分、コーナーキックを獲得すると、キッカーの粉木のペルをゴール正面に走り込んだ田中が右足で合わせ先制。その後、反撃する浦和の攻撃をしのいで1-0で勝利。日テレ・ベレーザが3連覇を達成した。

優勝・明治大学
2019年度 第68回全日本大学サッカー選手権大会

第68回全日本大学サッカー選手権大会は12月22日（日）に浦和駒場スタジアムで決勝戦が行われた。対戦は、明治大学と桐蔭横浜大学。明治大は後半早々から猛攻を仕掛けるが、90分間スコアレスで延長戦に。延長前半に、桐蔭横浜大が先制するが、明治大がすぐさま反撃し、3分間で逆転。112分にも森下が追加点を奪い、3-1で勝利。明治大が夏の総理大臣杯に続き、冬の全国大会も制覇した。

優勝・十文字中学校
JFA 第10回全日本U-15女子フットサル選手権大会

JFA 第10回全日本U-15女子フットサル選手権大会は1月13日（月・祝）に三重県桑名アリーナで決勝戦が行われた。決勝戦は十勝F.S.リトルガールズと十文字中の対戦。十文字中が9分にキックインから太田が先制ゴールを挙げて前半を折り返すと、後半の立ち上がりにも野村が追加点を決め、その後も2点を加えて4-0で勝利。十文字中が圧倒的な強さを見せて2大会ぶり3度目となる日本に輝いた。

準優勝・早稲田大学

第28回全日本大学女子サッカー選手権大会

第28回全日本大学女子サッカー選手権大会の決勝が1月19日（日）に味の素フィールド西が丘で行われ、日本体育大学と早稲田大学が対戦した。試合は10分に日体大が先制。早稲田大もパスを繋いで攻め続けるが、ゴールを奪えず。逆に裏に抜け出した日体大の奥津が40分に追加点。後半もペリスを握った早稲田大だがゴールを奪うことができず、日体大が2-0の勝利。早稲田大は惜しくも準優勝に終わった。

審判トレセン活動の 取り組み



審判委員会では、各カテゴリーでトレーニングセンターを設けています。以下にそれぞれの活動を紹介します。

- ・フィジカルトレセン：年11回
- ・プラクティカルトレセン：年6回
- ・座学トレセン：年8回
- ・女子サポートプログラム：年5回

フィジカルトレセンでは、審判員に必要な体力・俊敏性・体幹の向上を目指し、なかなか1人で行うことが難しいメニューを1級・2級の上級審判員と3級審判員が一堂に会し、楽しみながら行っています。

プラクティカルトレセンでは、審判インストラクターや上級審判員がトレーニングメニューを設定し、副審としてのオフサイド判定の見極めや、主審としてのファウル判定の見極め、競技規則改正後の対応など、試合に向けての実践的なトレーニングを積み重ねています。

座学トレセンでは、シーズン開幕前にはファウル判定の見極めや基準の統一、競技規則改正時には改正内容の確認を行います。また、審判インストラクターとの合同での座学では、審判員とインストラクターとの相互ディスカッションも行われます。

そして、女子審判員には、実技と座学の女性限定プログラムを開催しています。3級と4級を対象としており、審判資格を取得したものの実際の試合で審判をしたことのない方でも大歓迎です。

2020年1月現在、東京FAに登録しているサッカー審判員は、4級が約24,000人、3級が約5,000人と年々増えています。審判員登録数において、東京は全国の中でもナンバーワンではありますが、東京で開催される試合数は年々増加しており、主催団体からの派遣依頼に対して、審判割当を受けるS3級審判員が充足しているとは言い難い状況が続いています。

3級審判員の方は、ぜひ東京FAの審判割り当てにご協力ください。4級審判員の方は、隔月で実施している昇級試験を合格して3級審判員となり、審判割り当てへのご協力と、トレセン活動への参加をお待ちしています。



審判委員会発行の広報誌「ハーフタイム」を東京都サッカー協会のホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。
<http://www.tokyofa.or.jp/magazine/halftime/>

東京都サッカー協会
審判委員会 総務部会 青木 亮

AFTER THE MATCH 前国立競技場の思い出

前の国立競技場(以後 国立)は、いつの頃からか「サッカーの聖地」と呼ばれるようになりました。

それは、天皇杯や高校選手権など国内の大会の決勝戦が行われ、サッカープレーヤーなら誰もが一度はあのピッチに立ってみたいと思う所だったからです。また、国際試合やワールドカップ、オリンピックの予選そしてJリーグ開幕戦の舞台にもなり、数々の歴史を積み上げてきたことも聖地と言われるようになったことの所以でしょう。さらに国立は、東京FAにとっては2003年から2014年まで11年間事務局を置かせていただいた、まさに私たちにとっての誇りであり聖地でした。

さて今回は季節柄、国立にまつわる雪の二試合の思い出を書きたいと思います。

1試合目は1987年12月13日、雪のトヨタカップ、FCポルト(ポルトガル)対ペニャロール(ウルグアイ)です。結果は延長2対1でFCポルトが勝利。まだ多くの人々の記憶にあることと思います。

試合は、大雪、泥田のような中で強行されました。ところが、プロ中のプロたちによる壮絶な試合は、最悪な環境であるが故にかえって観ている人々に強烈な感動を与えたのです。そしてこの試合からサッカー関係者は多くのことを学びました。条件の良し悪しに関わらず最後に試合を決める要因は、選手の闘魂と基礎的な技術と体力であることです。また枯れた芝生に土が露出したピッチを改善することは最大の課題としてその後引き継がれたと感じます。

もう一つ、この試合の線審(副審)の一人は高田静夫さんが担当しま

した。通常の審判服に短パンです。凍るような寒さの中、もう一人の線審はガタガタ震えながら必死に耐えているのが分かります。それに対して高田さんは平然と旗を振っている。さすがだなと思いついてみたら、当時まだ新しかったホカロンをたくさん腰回りに入れていたとのことで大いに感心しました。

2試合目は、やはり雪の高校選手権、1998年1月8日、第76回高校サッカー選手権大会決勝、東福岡対帝京の試合です。結果は2対1で東福岡が勝利(この年、東福岡は高校総体、全日本ユースと併せて3冠を達成)

この日の国立は、午前中はチラホラ程度の雪でしたが昼前後から本格的な降りとなり、みるみるうちにピッチは白くなり、時間が経つほど降り方が激しくなってきました。

当時私は全国高体連サッカー部長でしたが、出来るだけの対策をとって試合は行くと決めていました。

この時、トヨタカップの経験が大いに役に立ったのです。試合が出来るようにカラーボール(黄色)を複数用意し、雪対策連絡網を使って除雪要員を集める(約200名の高校生が集まってくれました)などの対策を実施しました。そして最も気を遣ったのが、どちらかのチームに有利や不利にならないように除雪することでした。特にハーフタイムには両方のペナルティエリアだけ同じように除雪しました。

この頃には国立の芝生は素晴らしく改善され、ピッチは全面芝に覆われ、除雪後は比較的バスが通る状態になりました。そのことが東福岡の2点目に繋がったのではないかと感じています。

さて、新しい国立競技場が完成し、元日には天皇杯決勝がすでに行われました。これから新しい歴史が始まります。新国立が再び「サッカーの聖地」と呼ばれるようになってほしいものです。

東京都サッカー協会名誉会長
上野 二三一



第6回東アジアシニアサッカー大会が2019年10月26、27日に、韓国京畿道龍仁市で開催されました。この大会は東アジア3都市（東京都、韓国ソウル市、中国広州市）のO-40、O-50が対戦する大会で、2014年に東京都シニアサッカー連盟の提唱で始まりました。O-60は広州がまだ代表チームを組織できないため、東京とソウルだけの交流大会となっています。

当初予定していたナショナルトレーニングセンターが豚コレラの影響で利用できず急遽、龍仁市の「龍仁市サッカートレーニングセンター」に変更となりました。ソウルからバスで2時間以上かかりましたが、天然芝2面、人工芝3面の素晴らしいサッカー施設でした。この施設で26日は5試合、27日は10試合が行われました。

大会形式はカテゴリーごとに4チーム（開催都市は2チーム出場）のリーグ戦。東京代表としてO-40がFC青山、O-50がFC武蔵と四十雀クラブ東京の連合チーム、O-60が60リーグの選抜チームが参加しました。

初優勝を狙う東京都はO-40のFC青山が初戦でソウルロイヤルを5-0で破り期待されましたが、結果は1勝2敗の3位。O-50のFC武蔵四十雀連合も善戦したものの、やはり1勝2敗の3位で終わりました。唯一、O-60が交流試合とはいえ、同一チームとの対戦を2勝1分けで勝ち越して優勝することができました。今回は広州40に元中国代表選手が10名、ソウル60に元韓国国家代表選手3名が参加するレベルの高い大会でした。

27日の試合終了後、歓迎表彰式がソウルのホテルで開催されました。友好的な素晴らしい式典で2020年は東京で会いましょうと締めくくられました。2020年の第7回大会は10月25、26日に東京で開催されます。

東京都シニアサッカー連盟

委員長
深澤 光賢

大会結果

O-40

- ①エブルリンド ソウル
- ②広州明星足球倶楽部
- ③FC青山
- ④ソウルロイヤル

O-50

- ①ソウルロイヤルFC
- ②広州G34足球队
- ③FC武蔵四十雀連合
- ④ソウル選抜

O-60

- ①東京選抜
- ②ソウルロイヤル60



ソウルロイヤルに勝ち越して優勝を決めたO-60リーグ選抜



3位で大会を終えたO-50FC武蔵四十雀連合



O-40FC青山も大会3位となった

オフィシャルサイト

<http://www.tokyo-fa-senior.com>



東京都社会人サッカー連盟は、J1のFC東京、J2の東京ヴェルディ、FC町田ゼルビア、J3のFC東京U-23、JFLの東京武蔵野シティFC、関東サッカーリーグの東京ユナイテッドFC、東京23FC、日立ビルシステム、Criacao Shinjukuから、東京都社会人サッカーリーグに所属する226チームが連なる団体になります。

東京都社会人サッカーリーグは、1部リーグから4部リーグまでの昇降格を伴うリーグと昇降格が伴わないエントリーリーグで構成されています。16チームが所属する1部リーグでは、毎年3月に始まり10月までリーグ戦が行われ、上位3チームが11月に行われる関東社会人大会に出場し、関東リーグ昇格を目指しています。

その中で「日本マスターズ (O-35)」を紹介します。この大会は、35歳以上の選手で構成されるチームが出場する大会で、東京予選を戦い代表1チームが関東大会に出場。そこから上位2チームが全国大会に出場します。今年も、日本マスターズ2020 (O-35) 東京都大会を開催し、東京消防庁サッカー一部とaries035の対戦となった決勝戦は、2-1でaries035が勝利をおさめ、東京都代表となりました。

この大会は、元Jリーガーや、現役で関東リーグ、都リーグに出場している選手も出場するため、レベルが高いことも一つの醍醐味となっています。中でも千葉県は優勝経験があり、昨年は全国3位と関東エリアのレベルも高くなっています。

生涯サッカーを楽しむために、社会人連盟として、このような活動にも積極的に力を入れています。

東京都社会人サッカー連盟

副委員長
田中 浩



日本マスターズ2020 (O-35) 東京都大会を優勝したaries035



決勝はaries035が東京消防庁を2-1で破った

オフィシャルサイト

<http://tokyo-fa.com>



「連盟ニュース」では各連盟の大会結果・取り組みなどを4連盟ずつ紹介します。次号(20年10月発行)では、自治体連盟・地区連盟・高体連・クラブユース連盟を掲載予定です。

東京都大学サッカー連盟は現在1部～4部で構成され、全41大学が所属しています。加盟チームの協力のもと、大学サッカーの水準向上と普及に努めるとともに、学生の全人的な資質向上と、広く社会に貢献できる人材育成を目的とした団体です。

毎年、1部～4部間の昇降格を左右するリーグ戦や、下級生の試合経験の場となる新人戦の運営を行うほか、関東連盟主催の各種大会予選(東京都サッカートーナメント都学連予選、総理大臣杯兼アマノバイタルカップ関東大学サッカー選手権大会予選など)の運営も行っています。

3月から12月を通してほぼ毎週、リーグ形式やトーナメント形式で試合を開催しているので、毎週末試合を見に来てくださる大学サッカーファンの方もいらっしゃると思います。2020年度は第53回関東大学サッカー大会の主催連盟となっているため、運営面における水準向上にますます尽力する所存です。

また、技術委員会主導で、選抜メンバーによる練習試合や海外遠征の開催も行っており、選手の技術力向上にも努めております。プロチームに入団する選手も毎年数名輩出しており、2019年度は東京農業大学より安藤一哉選手がガイナレ鳥取に新加入致しました。

本連盟は、幹事長や各委員長を中心に学生主体で活動しており、試合や組織の運営に興味ある学生が主体性をもって活躍できる場にもなっています。

応援してくださる方をもっと増やしたい、もっと試合を身近に感じてもらいたい、との思いから昨年度からPlayer!アプリでの速報配信も始めました。大学サッカーをもっと身近に、より多くの人に楽しんでいただけるように今年度も活動していく所存です。

当連盟の年間事業のうち、後期については会長杯秋季大会、海外親善交流遠征、秋季フットサルフェスティバルが事業計画にあり、会長杯秋季大会は第38回目を迎え、大原簿記公務員医療福祉保育専門学校立川校が初優勝をかがり閉幕した。

海外親善交流遠征は、今年33回目の遠征となり、一昨年から遠征先を台湾とし、今回台北市立大学と中国文化大学と親善試合を行った。

戦績は1勝1敗であったが、互いに真剣勝負のなかでも非常にフェアなプレーで親善交流を図れた。また、今回初めて当連盟選手(学生)による、現地小学生対象のサッカー教室を企画し実施。30名の小学校低学年生に選手たちがコーチ役でスポーツの楽しさを伝える趣旨の内容で、選手達は通訳を介しながら、ジェスチャーやデモンストレーションを駆使して、一生懸命スポーツの楽しさを伝えようとしていた様子が印象的で、参加した子供たちも楽しそうにボールを追っていた。その様子を親御さんたちも笑顔で見守り、当連盟としても非常に意義のある親善交流遠征が出来たと感じている。サッカー教室の最後は、親御さんたちも含めた記念撮影をして終了し、多くの親御さんから来年も必ず実施してほしいというお声も頂いた。

東京都大学 サッカー連盟

広報委員長

平岡 弥久



都県大学サッカー選抜交流戦に出場した東京都選抜



平成最後となったリーグ表彰式

オフィシャルサイト

<http://www.f-togakuren.com/>



東京都専門学校 サッカー連盟

副会長

佐々木 善



海外親善交流遠征では台北市立大学と中国文化大学と親善試合を行った



スポーツの楽しさを伝え、参加した子供たちも楽しそうにボールを追っていた



当連盟選手による、現地小学生対象のサッカー教室を開催した

オフィシャルサイト

<http://www.tafa.jp>



親子の会話 新聞では必ずむ

ニュースに強い!
むずかしいことばの
解説もあるわ

漢字には
ふりがなが
ついているよ

まんがや小説
いろいろあるから
親子で楽しめるね

毎日届くのね
読む習慣が
つきそう



わかりやすいニュース解説、おさえておきたいニュースのことば、さまざまな学習まんがなど、盛りだくさんのメニュー。読者の家庭では、お子さんと一緒にお母さんも愛読しています。

朝日小学生新聞

毎日発行 8ページ 月ぎめ1,769円(税込み)

ご購入、「朝学ギフト」のお申し込みは下記、またはお近くのASA(朝日新聞販売所)へ

通話無料 0120-415843

ウェブサイト www.asagaku.com

朝日小学生新聞のサンプル紙面もチェックできます。



スポーツコーナー

毎週1回掲載のスポーツコーナー、『週刊朝スポ!』では、最新情報や2020年東京五輪・パラリンピックで行われる競技を、楽しく見るコツを紹介しています! 紙面で紹介した動きは**動画**でも見ることができます。

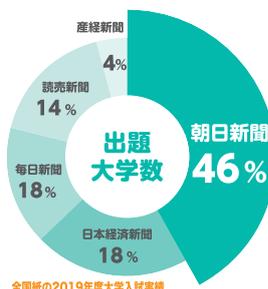
2020年度大学入試改革に備え



読解力と表現力が身につく、図表を読み解く力!
今から『朝日新聞で学習ノート』

新しいテストは社会的テーマの知識を問う出題が増え、長文やグラフ、図表をすばやく読み解く力が求められます。その対策として、朝日新聞のコラムや解説を活用した「**天声人語の書き写し**」と「**いちからわかる!の線引き学習**」がお勧めです。A4判、両面表紙20ページ。学習ノートはASA(朝日新聞販売所)で。

朝日新聞は入試に出る!



2019年度も、多くの大学の入試問題に朝日新聞の記事が登場。理系・文系を問わず、さまざまな学部や学科の入試問題で採用されています。

※大学通信課(2019年5月31日現在)。全国の大学にアンケート調査。対象は読売新聞(読売新聞オンライン)、朝日新聞(朝日新聞デジタル)、毎日新聞(デジタル毎日)、日本経済新聞(日経電子版)、産経新聞(産経ニュース)。回答数723。

出題校一覧はWEBで!

朝日 この大学で出た 検索